特定非営利活動法人
地域がん登録全国協議会
JACR Japanese Association of Cancer Registries

NEWSLETTER

JACR ニューズレター

February.2014 No. 34

JACR 20周年記念シンポジウム報告……1-4p
がん疫学データの医療用医薬品事業性評価への活用……5p
がん登録推進法と全国がん登録……6p
藤本伊三郎賞の設立……7p
第35回IACR参加のご報告／関連学会一覧……8p
第23回学術集会のご案内……9p
登録室紹介　福島県……10p
展示ブース出展と自由集会開催報告／NCC地域がん登録室便り……12p
登録室リレー随筆……13p
事務局だより……14p
冊子のご紹介……15p
モモコさんと紫本／賛助会員一覧／編集後記……16p

JACR20周年記念シンポジウム報告

20th Anniversary!

（幸運にも、「がん登録の推進に関する法律」成立の2日後に開催となる）

田中 英夫　理事長
愛知県がんセンター研究所　疫学・予防部　部長

平成25年12月8日、JACRは永田町のJA共済ビル カンファレンスホールにおいて、地域がん登録全国協議会20周年記念シンポジウム「地域がん登録ーその必要性と求められるもの」を、厚生労働省と日本医師会の後援で開催しました。「がん登録等の推進に関する法律」が第185回国会（臨時国会）で成立した直後の開催となり、会全体で140名を超える参加者を数え、熱気に包まれた会となりました。ご来賓の皆様や、協賛団体をはじめ、シンポジウムの企画、準備、運営にご協力いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。以下に、シンポジウムの企画段階から当日の記念講演までの概要をご報告いたします。

1. 企画と準備

平成24年12月の理事会で、20年間の当協議会の歴史を振り返りながら、今後のがん登録事業の課題を考えるために、各方面の方々と意見交換する場を設けたい、という思いでシンポジウムを開く事を決定しました。そのプログラム企画は、広報委員会と学術委員会が、事務局と協議しながら行いました。開催に要する資金の一部は、日本医師会、サイニクス株式会社、株式会社キャンサースキャン、アメリカンファミリー生命保険会社、株式会社ヤクルト本社、株式会社ファルコバイオシステムズの6社から、協賛をいただくことになりました。

2. シンポジウムのご来賓

シンポジウムの冒頭で、日本医師会の今村聡副会長、国立がん研究センターの堀田知光理事長、厚生労働省の椎葉茂樹がん対策課長から、丁重なご祝辞を頂戴しました。それぞれのお立場から、「がん登録等の推進に関する法」の成立を共に喜び、がん登録事業の発展とJACRの役割に期待を寄せる勇気と希望の沸くスピーチを頂きました。

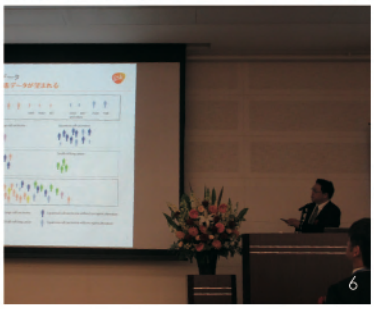
20周年記念シンポジウム会場のようす

3. 記念講演

初めに、私（田中）が「JACRこれまでの20年と今後の方向」と題して、これまでの取り組みを振り返りました。そして、法成立後の地域がん登録事業の役割の見通しについて、話しました。

次に、今回の法律の大きな推進役となられました、衆議院議員の塩崎恭久様に、議員立法として法律ができるまでのプロセスや、全国がん登録データベースへの期待について、お話しいただきました。記念講演の3人目は、国立台湾大学の頼美淑教授に、アジアの中で最も精度の高いシステムを有している台湾のがん登録制度について、その概要を説明していただきました。

次ページへ続く→



1.理事長を囲んで記念撮影　2.懇親会のようす
3、4.国立台湾大学の頼美淑教授　5.熱心に聞き入る参加者のみなさん
6.貝瀬俊彦氏講演　7.会場入口

4. JACR　20年の足跡

ここで記念講演の中から、JACRの20年間の足跡についての概略を紹介します。

(1)創成期(平成4~10年)

各県の地域がん登録事業の技術支援や人材育成を目指して、平成4年12月に大阪で結成されたJACRは、藤本伊三郎初代理事長の指導の下、年に1回の総会研究会や実務者研修会を各県持ち回りで開く、研究会の記事をJACR Monographとして定期刊行するなど、今日につながる活動の原型を整えた。

(2)地固め期(平成10~18年)

平成10年頃から、患者本人の同意を得ずに行うがん登録事業を問題視する声がメディア・社会から上がり始めた。これに対し、大島明二代目理事長を中心に、事業の必要性と安全性について、様々なチャンネルを使って訴え、社会からの事業に対する理解の回復に努めた。また、平成16年に始まったがん登録の研究班活動と密接に連携し、地域がん登録標準化の構想と「標準データベースシステム」の開発に関与した。

(3)発展期(平成18~25年)

平成18年6月に成立したがん対策基本法により、がん登録への届出が増加し、再び事業が脚光を浴びる状況が生まれた。平成22年2月にはNPO法人化し、同年10月には第32回国際がん登録協議会学術総会を横浜市で共催し、世界に向けて情報発信することができた。平成24年3月からは、参議院法制局や厚労省の職員などからの意見聴取に応じるなどして、がん登録推進法案の作成を後押しした。

5. シンポジウムの成果

「がん登録等の推進に関する法律」が成立することは、多くのJACR関係者の、20年来の夢でした。そしてこれが現実のものとなった今、この法律の精神を実現し、最終的にはがん予防とがん患者さんのQOLの向上につなげていかなければなりません。そのためには、患者会、医療機関、行政、研究者・専門家、企業、がん登録事業従事者が力を出し合い、連携・協調することが何よりも重要です。この認識をシンポジウムに参加した全員が共有できたことが、何よりの成果だったと感じています。

8.衆議院議員 塩崎恭久氏　9.西本寛氏　10.質疑応答　11.左から濱本満紀氏、三原じゅん子氏、田中理事長
12.パネルディスカッションのようす　13.祖父江友孝氏

JACR20周年記念シンポジウム報告②

杉山 裕美 専門委員

（公財）放射線影響研究所疫学部　腫瘍組織登録室室長代理

JACR20周年記念シンポジウムのパネルディスカッションについて報告いたします。

濱本満紀氏は、大阪でのがん患者への情報発信として、大阪府がん登録データをフルに活用した“大阪がんええナビ”（http://www.osaka-anavi.jp）を紹介されました。がん患者からみると、あふれる情報から適切な情報を選ぶことが難しく、整理された情報が必要なことをお話されました。情報発信の継続により、がん登録情報が重要であることの理解が進み、患者たちの情報ががん登録として登録されることに反対の患者は一人もいなかったということがとても印象的でした。

西本寛氏は、これまでの院内がん登録構築の成果として、院内がん登録データから、希少がんについても検索可能となったことや、オーダーメイド集計できるシステム開発が進んだことを紹介されました。法制化に伴う今後の方向性として、全国がん登録データベースを中心として、がん登録の標準化、データ精度の維持、実務者の育成、将来的に患者の全治療経過の把握が出来るようなデータベース構築を目指し、研究的利用促進、がん患者のニーズに応じた情報提供体制を構築したいと講演されました。

井岡亜希子氏は、大阪府がん対策推進計画について、たばこ対策、C型肝炎ウィルスキャリア対策など、がん登録資料を活用した死亡率減少の数値目標設定および行動計画の作成の重要性について講演されました。

祖父江友孝氏は、大規模後ろ向きコホート研究（Edgren et al, 2007）を例に挙げ、法制化後の全国がん登録データと他の資料とのデータリンケージで、その個人が生存している場合は個人の同意が原則であることに問題提起されました。その研究は、デンマークとスウェーデンの血液バンクに登録された患者データとがん登録を含むその他の健康関連データを照合し、がんを発症した者から輸血を受けた者の将来のがん発症リスクが上昇するかどうかを検討したものでした。この研究を例に、個人の同意を得ることによってデータに偏りが生じる可能性や、結果を歪めてしまう可能性を説明されました。健康リスク評価に必要な研究と、研究対象者の個人情報を守るための方法として、データの照合のみを行う第3者機関を設ける方法を提案されました。

次ページへ続く→

貝瀬俊彦氏は、薬物治療およびがん治療ワクチンの対象患者の把握に、がん登録データが活用されていることを講演されました。今後、薬物治療薬は分子標的に応じて希少フラクション化していくことから、薬物治療を必要とする患者数の把握には、患者のバイオマーカー（遺伝子変異、蛋白発現）情報ががん登録情報に含まれると、より利用価値が上がるということでした。

最後に三原じゅん子氏が、がん登録法法制化作業チームの一員としてご尽力されたことについてご講演されました。がん登録だけでなく、小児がん対策、がん検診の推進、国民へのがん教育なども含めて話を進め、ようやく法律を成立させることができたそうです。今後は病院の届出の負担を考慮しつつ、実務的な予算を確保すること、この法律を全国がん登録を始めるための第一歩と捉え、がん医療の向上のために尽力していきたいと力強く述べられました。

総合ディスカッションでは、今後全国がん登録へと移行する中で、これまでの都道府県の運用ノウハウ（情報の質の担保、予後情報としての住民票照会）や蓄積されたデータの継続的活用、国民番号制度の設定によるがん登録データとその他のデータをリンケージしての研究的利用促進などが提案されました。今後も国と地方が協力して全国がん登録データを作る仕組みを考えていこうと締めくくられました。

がん患者会、国会議員、研究者と多岐にわたるご講演、ディスカッションであり、非常に意義深いものであったと感じました。今後、がんのリスク評価のためには全国がん登録データと他のデータベースとの照合は必須であり、これから発展する分野と思われます。

個人情報保護とがん登録データの活用との両立がスムーズに発展するよう願っています。

（祖父江氏ご紹介文献）
Edgren, et al. Risk of cancer after blood transfusion from donors with subclinical cancer: a retrospective cohort study. The Lancet, Vol.369(9574), 1724 - 1730, 2007

大阪がんえええナビ

http://www.osaka-anavi.jp/

私たちの活動にご協力ください

賛助会員（個人・団体）を随時募集しています

賛助会員
個　人… 年間 5,000円
団体1口… 年間 50,000円
（1口以上）

○寄付金も受け付けています
○入会のお申込みや寄付等のお問い合わせは
ウェブサイトの「お問合せ」よりお知らせください

http://www.jacr.info/

主な事業内容

がん登録に関する学術集会、セミナー等の開催
地域がん登録に関する様々な情報の提供
がん統計、がん登録に関する調査や研究の実施
国際がん登録協議会（IACR）への参加・協力
がん登録に携わる人材の育成やサポート
地域がん登録室の安全管理措置に関する活動
地域がん登録の広報媒体、冊子、教材、資料等の発行